

須恵東中学校 災害時対応マニュアル（学校・保護者・地域版）

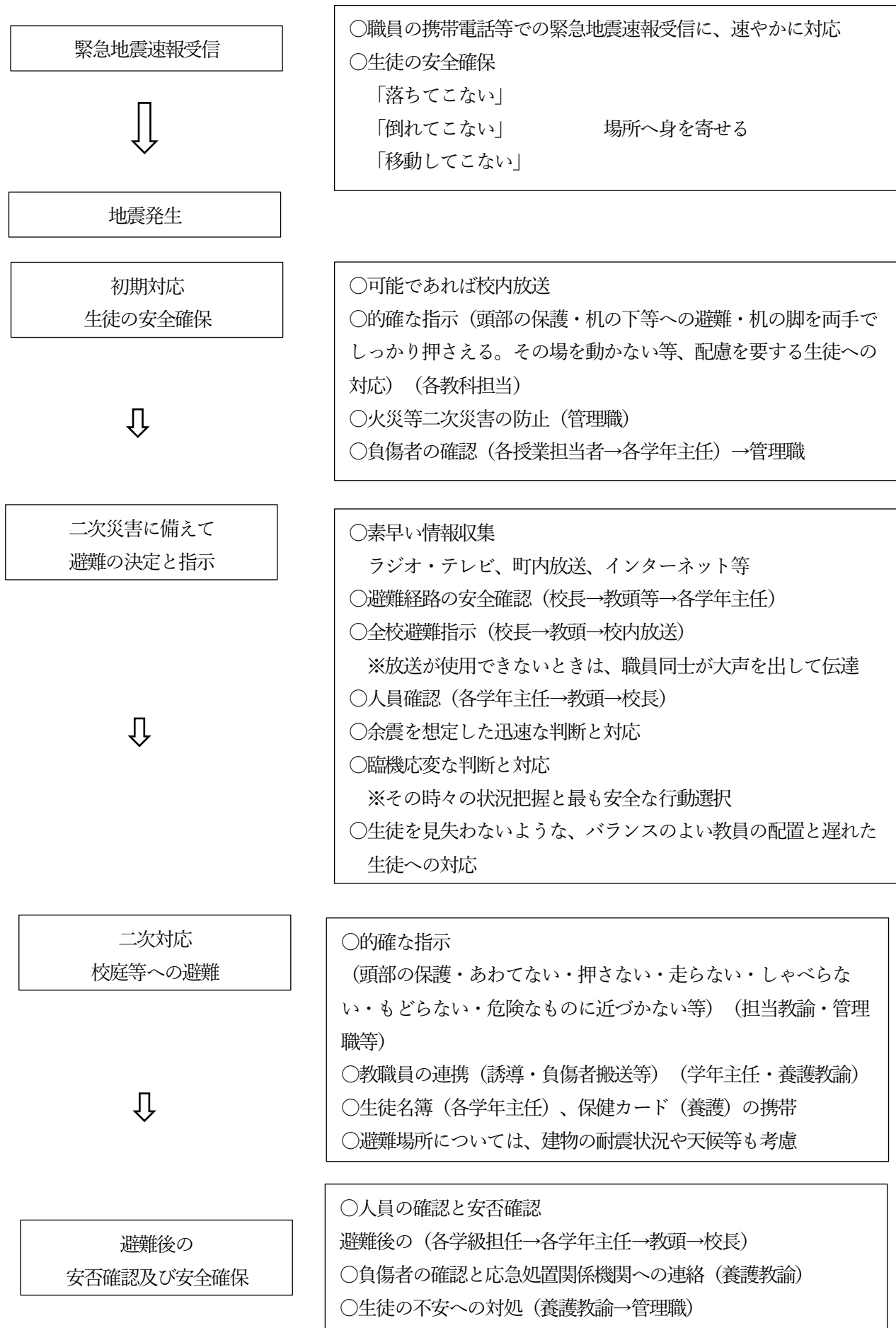
I 地震に対する基本方針

- 1 「震度5弱以上」の地震が起き、登校前で生徒が家庭にいる場合は登校させない。
- 2 「震度5強以上」の地震が登校後に起きた場合は、保護者が引き取りに来るまで学校で待機させる。
ただし、学校の安全が確認されていない場合の車での引き取りはしない。
※震度5弱以下の場合は、安全を確認の上、下校させることを原則とする。
(教師引率の集団下校もある。)
- 3 登下校中に地震が起きた場合は、下記「登下校時の対応」により、揺れが収まるまで安全な場所を探し身を守る。揺れが収まったら、学校か家庭の近い方に向かわせる。迷った時は学校へ。

1 登校時の対応

生徒の行動	教職員・保護者・地域の対応
<p>地震発生</p> <p>↓</p> <p>安全確保</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○頭部を保護し身を低くする ○車道に出ない ○建物・ブロック塀・窓ガラスから離れる </div> <p>↓</p>	<p>地震発生</p> <p>↓</p> <p>安否確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○校内残留児童生徒等の安否確認 ○通学路・避難場所の生徒等の安否確認 </div> <p>↓</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; display: inline-block;"> <p>近くの避難場所へ移動</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; display: inline-block; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ○揺れが収まったら、避難場所又は自宅に避難 ○自宅や学校に避難することが困難な場合、教職員、保護者・地域の人に来るまで待機 </div> <p>↓</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>自宅確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>校内巡視</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>通学路巡視</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域と連携し生徒の所在を確認 ○校区区長・いきいきコミュニティとの連携 </div> <p>↓</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>自宅に帰る</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>学校に行く</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; display: inline-block;"> <p>○どちらかを選択。近いほう</p> </div>	<p>↓</p> <p>生徒の保護</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭への確実な引き渡し ○家族不在時は学校で保護 ○安心・安全メール、すまっぼんなどでの預かり生徒のお知らせ </div>

2 校内の基本的な対応



3 引き渡しの手順

- ・「震度5強以上」の地震発生の場合、学校待機→引き渡し下校
- ・地震その他で、下校の危険が予想されるとき、安心・安全メール、すまっぼんで知らせる。
- ・引き渡しカードを使って確実な引き渡しを行う
- ・本校周辺は災害指定区域に指定されているため車での引き渡しが難しいことも想定される

	学級担任・養護教諭・管理職	災害対策本部・教育委員会
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き渡し場所の設置 ○ 引き渡しカードの準備 <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅する生徒にカードを記入させる ○ 生徒を待機場所へ ○ 引き渡しカードの照合・引き渡し <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・代理人であることの確認のために来て頂いたらカードに記入してもらう ○ 連絡先の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後の連絡先がカードの連絡先と同じかどうかの確認 ・自宅以外に引き取る場合は連絡先を確認 ○ 名簿チェック ○ 災害対策本部に報告 ○ 残った生徒の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き渡し場所の決定 <ul style="list-style-type: none"> ・各教室又は、体育館、ピロティ・校庭など状況に応じて判断 ○ 保護者の誘導 <ul style="list-style-type: none"> ・車での引き渡しが可能の場合は駐車場の案内 ○ 引き渡し方法の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの今後の連絡について <div data-bbox="943 1041 1394 1308" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>引き渡しのルール</p> <p>震度5強以上 学校待機 → 保護者引き渡し</p> <p>震度5弱以下 原則下校</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○引き渡し状況の集約 ○教育委員会に報告

II 台風、大雪等の対応

1 前日に暴風雨等の情報がある場合

前日の午前中までに措置（教育委員会と協議して）を決定し、保護者に連絡します。

※ 生徒の下校時に通知を持たせるか、または安心・安全メールを配信します。

2 授業時間中に急な悪天候になった場合

① 状況を判断し、下校が可能なときは速やかに集団下校をします。

② 下校が難しいと判断した場合、引き渡し下校となります。

※ 保護者の皆様へ

安心・安全メールで学校からの情報をできる限り知らせていきますが、以下のことにご留意ください。

- ・安全を第一に考え、各ご家庭でも危険と判断された場合は、無理をせず、登校時間を遅らせたりしてください。なお、登校時の生徒の安全確保は各ご家庭でお願いいたします。
- ・生徒の欠席・遅刻等につきましては、安全管理の面からその旨を確実に学校へ連絡して下さい。
- ・基本的には、ラジオやテレビ、インターネットなどでの気象情報を確認していただくことになります。また、学校へのお問い合わせの電話は、混乱を避けるためお控えください。

III 竜巻発生時の対応

竜巻等突風は、発達した積乱雲に伴って発生する局所的・突発的な現象であり、場所と時間を特定して事前に予測することは現状では困難です。生徒の安全を確保するため、①教職員が竜巻等突風の危険性を認識し、②事前に天気予報を確認するとともに、③天気の急変などの場合には躊躇することなく計画の変更・中断・中止等の適切な措置を講ずることになります。

また、生徒が自分で判断して身の安全を確保できるように、日常の指導の中で、①積乱雲がもたらす急な竜巻等突風や積乱雲の近づく兆しがある場合のとるべき行動、②竜巻等突風の特性、③安全な避難場所について、指導します。

【竜巻が予想される場合に考えられる対処行動】

〈屋内にいる場合〉

- ・窓を閉め、カーテンを閉めて、窓から離れる。
- ・雨戸やシャッターを閉じる。
- ・地下室や建物の最下層に移動する。
- ・家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する。
- ・部屋の隅やドア、外壁から離れる。
- ・丈夫な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。
- ・上着や荷物で頭部を覆う。

〈屋外にいる場合〉

- ・近くの丈夫な建物に避難する。
- ・（丈夫な建物がない場合は）近くの水路やくぼ地に身を伏せ、頭と首を守る。
- ・車庫や物置き、プレハブを避難場所にしない。
- ・橋や陸橋の下に行かない。
- ・飛来物に注意する。

IV 集中豪雨等による洪水発生時の対応

台風等に伴う大雨により、池や沼の氾濫による増水・浸水が見込まれる場合の対応は、以下のようになります。

① 学校管理下にあるとき

- ・2階以上に避難をします。避難後は、地震発生時または台風時の対応に準じた対応をとります。

② 学校管理下以外にあるとき

- ・災害の種類により、地震発生時または台風時の対応に準じた対応をとります。

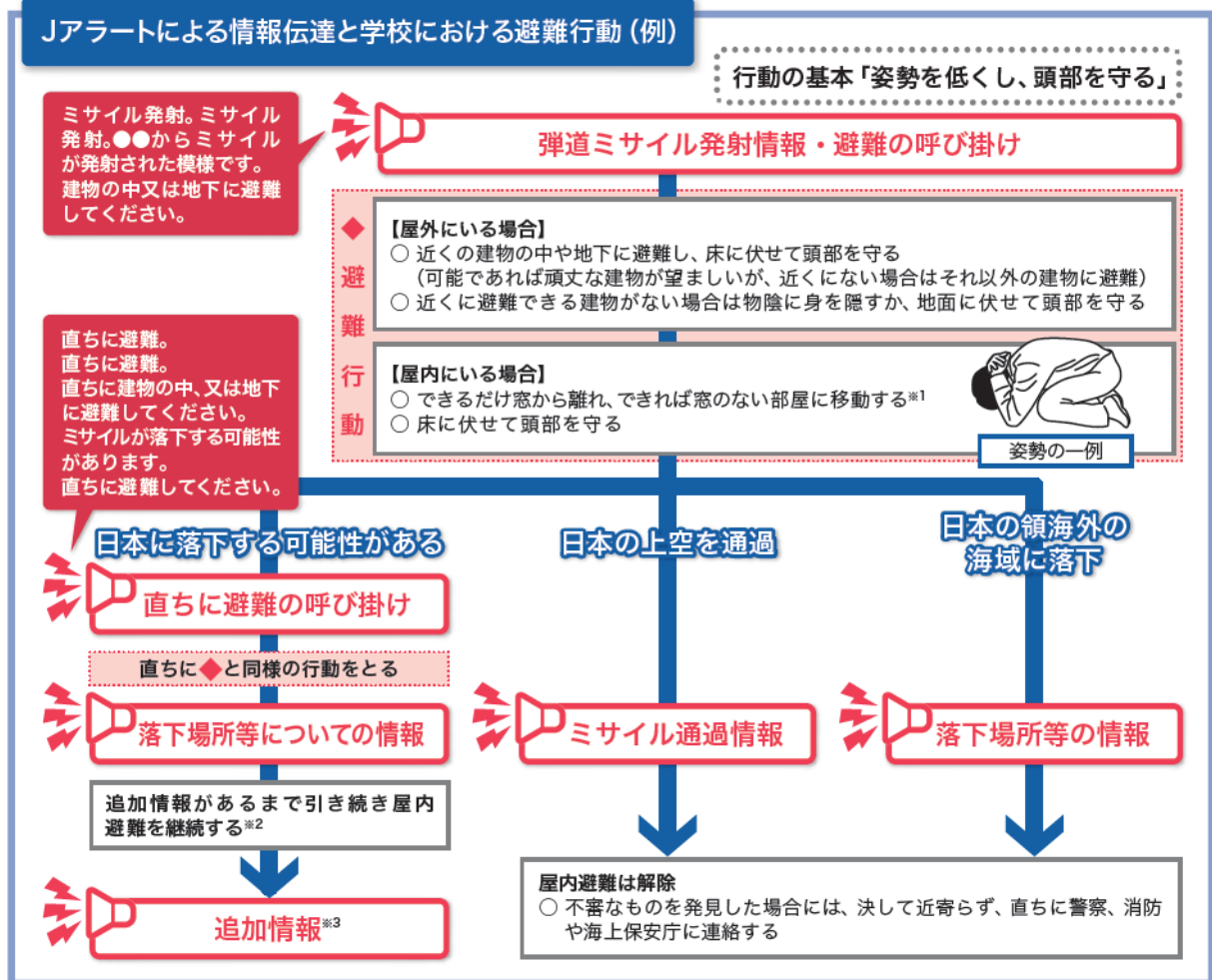
VIII 弾道ミサイル発射に伴う対応

弾道ミサイルが発射され、日本に飛来する可能性がある場合は、Jアラート等により情報伝達されます。

1 Jアラート等を通じて緊急情報が発信された場合の対応

弾道ミサイルが着弾した際には、暴風や破片等による危険が想定されるため、それから身を守る行動をとることが必要です。正しい知識を身に付け、適切な避難行動をとることにより、被害を最小限にするようにします。

(1) Jアラートによる情報伝達と学校における基本的な行動の流れ



※1 「弾道ミサイル発射情報・避難の呼び掛け」の時点で、すぐに避難できるところに頑丈な建物や地下があれば、直ちにそちらに避難してください。ただし、校舎の状況や児童生徒等の避難経路など各学校の実情を十分に踏まえて、例えばその場に留まることも考慮に入れるなど、安全な避難行動がとれるようあらかじめ検討してください。

※2 「ミサイルが○○地方に落下した可能性がある」等の情報があつた場合は、追加情報の伝達があるまで屋内避難を継続し、テレビ、ラジオ、インターネット等を通じて情報収集します。また、行政からの指示があればそれに従って落ち着いて行動します。もし、近くにミサイルが着弾した場合は、弾頭の種類に応じて被害の及ぶ範囲等が異なりますが、次のように行動します。

- 屋外にいる場合は、口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。
- 屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

※3 その後の状況に応じて、屋内避難を解除するような情報、又は引き続き屋内避難をするあるいは別の地域へ避難するといった情報が伝えられます。

2 様々な場面における避難行動の留意点

学校にいる場合

【校舎内の対応例】

例えば、弾道ミサイル発射情報・避難の呼び掛けがあった際に、教室内で授業中の場合であって、地下室や窓のない部屋にすぐに移動することが難しい場合は、窓からなるべく離れて床に伏せて頭部を守ること、机の下に入って頭部を守ることなどが考えられます。

【校舎外の対応例】

例えば、校庭での授業中の場合であって、近くの建物の中や地下に避難することが難しい場合は、遮へい物のない校庭の中心ではなく、物陰に身を隠すか、その場で地面に伏せて頭部を守ることなどが考えられます。

校外活動中の場合

- 屋内にいる場合でも、すぐに避難できるところに頑丈な建物や地下があれば直ちにそちらに避難するようにすることが求められます。
- 校外活動に際しては、学校として、計画の段階で様々な危機事象の発生も想定しておくことが求められます。活動場所での情報伝達方法や危機事象が発生した場合の避難について、事前に確認しておくことが重要です。特に、野外での活動の際は、引率者は、携帯電話等の情報ツールを携帯することはもとより、情報収集の手段を確保しておくことや、事象が発生した場合の避難を念頭においた下見を行うことなど場所に応じた対応が求められます。
- 児童生徒等に対しては、こうした検討を踏まえ、例えば、自由行動中など教職員がそばにいない際の避難行動や連絡手段について、事前に指導しておくことが求められます。

登下校中の場合

- 登下校中は、地震発生時と同様に、そのとき入手した情報に基づき児童生徒等が自らの判断で冷静に行動できるよう、事前に指導しておくことが求められます。
- 屋外スピーカー等から警報が発せられる場合、場所によっては聞こえないことも少なくありません。しかし、ミサイル発射情報はテレビやラジオでも伝えられるほか、緊急速報として携帯電話等にもメールが配信されるので、聞こえてくる音を注意深く聞くことも大切です。また、緊急情報を知った人が何らかの行動をとることから、周囲の変化や人の行動も情報の一つとして考えられます。電車やバス等、公共交通機関においては、車内に流れる情報や乗務員の指示を注意して聞き、その指示に従うことが大切です。

【スクールバス等における留意点】

- 自動車乗車中の場合は、ガソリンなどに引火する危険があることから、車を止めて近くの建物や地下等に避難する、周囲に避難できる場所がない場合は車から離れて地面に伏せ、頭部を守る行動をとります。
- バスに乗っている児童生徒等の状況によって、車外に出ることが危険と判断される場合は、車内で姿勢を低くして頭部を守ること考えられます。地震の避難と同様、危機事象に遭遇した際には危険回避のために統率のとれた行動ができるよう平素から指導しておくことが大切です。



児童生徒等が自宅等にいる場合

- 児童生徒等が登校前や下校後で自宅等にいる場合は、安全確認が取れるまで待機し、身の安全を確保することが必要であり、こうした行動ができるようあらかじめ指導しておくことが重要です。あわせて、早朝等に弾道ミサイル発射情報が伝達された場合の登校時間の変更や臨時休業などの学校からの情報伝達の方法や安否確認の方法についても、あらかじめ決めた上で、周知しておくことが必要です。